

# ARICセミナー

— 農業農村整備情報総合センター創設30周年を迎えて —

## (一社)農業農村整備情報総合センター

### ARICセミナーの開催

平成28年3月9日(水)に秋葉原UDXシアターにおいて、農林水産省、(国研)農研機構農村工学研究所及び(公社)農業農村工学会の後援をいただき、ARICセミナーを開催いたしました。

ARICセミナーでは、農業農村整備における新技術、ICT技術等の今後の展開をテーマとし、技術開発や活用に直接携わる方々を講師にお迎えし講演をいただきました。

当日は、あいにく小雨の降る冷

たい日となりましたが、147名の方に御足労いただきました。

農業農村整備関係のセミナーとしては、これまで、あまり取り上げられなかった内容も含まれており、多数の参加者から、技術開発関係の行政・研究の動向や、\*FOSSの応用、土木分野における情報取得技術の発展などの現状について知ることができ業務に役立つ、などの感想が寄せられました。

このため、次号122号以降において、ARICセミナーの講師の方々か



らご寄稿いただき、セミナーでご講演いただいた内容等の紹介を企画したいと思います。

また、会員の皆様には、ARICホームページ上で、講演者の資料を御覧いただけます。

\* FOSS: Free and Open Source Softwareの略語、自由に利用できるソフトウェアを指す用語。

### NNTD 登録技術の紹介コーナー

### インターミッション 14:40 ~ 15:10



インターミッションの間、農業農村整備民間技術情報データベース(NNTD)から、約20社の登録技術について、パンフレット等の展示・配布を行い、来場者へ新技術等の紹介が行われました。

また、本年度はARICの創設30周年にあたることから、「ARIC30年のあゆみ」が来場者に配布されました。

## 講演プログラム

### 【基調講演】農業農村整備における新技術の開発と活用 13:10 ~ 13:50

(国研)農研機構農村工学研究所企画管理部 山本 徳司

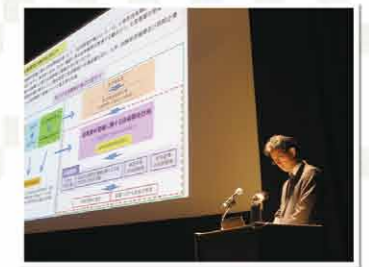
農林水産研究基本計画における農業農村整備分野の重点目標や課題、計画に基づく技術開発の動向を具体的な研究事例を用いてご講演いただくとともに、近年急速に発展したICT、FOSS、GIS等の技術を応用する際の留意点についてお話をいただきました。



### 農業農村整備における新技術の開発と利用の促進 13:50 ~ 14:10

農林水産省農村振興局設計課施工企画調整室長 佐々木 明徳

「農業農村整備に関する技術開発計画」の位置づけや考え方、計画に沿って開発された各種技術の紹介とともに、技術開発における産学官の連携の促進や次期「技術開発計画」の策定に向けた検討状況などをご講演いただきました。



### 公的セクターにおけるFOSSの活用事例 14:10 ~ 14:40

(国研)農業環境技術研究所生態系計測研究領域主任研究員 岩崎 巨典

近年、急速に活用が進んできているFOSSについて定義や経緯について丁寧にお話しいただき、さらに国内外の政府機関や国際機関など公共セクターにおけるFOSSの活用動向、FOSSの利用の利点や留意点についてご講演いただきました。



### 山形県水土里情報システムの運用事例 15:10 ~ 15:40

水土里ネットやまがた技術部長 角田 五郎

地理情報システムとして代表的なFOSSであるQGISを活用した、山形県の水土里情報システムの構築の考え方から運営状況についてお話しいただくとともに、実際に水土里ネットのサーバーにインターネット経由でアクセスし、利用方法について実演いただきました。



### 空間情報取得技術とその応用 15:40 ~ 16:10

国際航業(株)地理空間基盤技術部技術部長 大石 哲

近年、技術革新が著しい空間情報の取得技術について、UAV(ドローン)や熱赤外線カメラ、デジタルセンサー等を活用した具体的な事例についてお話しいただき、更には取得した3Dの空間情報の活用について、\*CIMの導入を見据えた土木分野での応用事例などについてご講演いただきました。

\* CIM: Construction Information Modelingの略語、各工程で3次元モデルを活用し関係者間で情報を共有することにより、建設生産システムの効率化・高度化を図るもの。



### 電子図書館構想の展開と農業農村整備におけるデータ活用 16:10 ~ 16:30

(一社)農業農村整備情報総合センター研究第1部長 鈴木 孝文

当センターの20周年記念事業として始めた「水土の礎」を踏まえ、電子図書館構想の取組状況や電子図書館で活用するFOSSの技術等に関して、農業農村整備の事業管理への応用の可能性などを含め講演しました。

